

学校名	いしかわけんりつかなざわさくらがおかこうとうがっこう 石川県立金沢桜丘高等学校	校長名	よしおか としやす 吉岡 利恭
所在地	〒920-0818 いしかわけんかなざわしおおひまち16ばん1ごう 石川県金沢市大樋町16番1号	TEL	076-252-1225
		FAX	076-252-1643
		URL	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~sakurh/

1. 研究主題

学習指導要領に定める目標等の実現状況を把握するための、保健と体育における観点別評価規準の検討と指導と評価の一体化の充実

2. 研究期間

平成20年度～平成22年度 3年間
(学力の把握に関する研究指定校事業)

3. 研究の目的

(1) 研究主題設定の理由

生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営む資質や能力を育成するために、保健と体育における観点別評価規準の一層の充実を図りながら、学習指導要領に定める目標等の実現状況を把握し、指導と評価の一体化の充実を図ることを目的とした。

(2) 調査研究の対象

分野 (領域)	内容項目	具体の 単元	評価の観点
保健	現代社会と健康	応急手当	関心・意欲・ 態度 思考・判断 知識・理解
体育	・球技 (1, 2年目) ・球技 ベースボール型 (3年目)	ソフト ボール	関心・意欲・ 態度 思考・判断 運動の技能 知識・理解
	体育理論	運動技能の構造と運動の学び方 (1, 2年目) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 (3年目)	関心・意欲・ 態度 思考・判断 知識・理解

4. 研究の方法・実践概要

(1) 評価規準の設定

- ① 具体の評価規準の設定
 - ・ 観点別評価規準の検討・工夫
- ② 学びの姿の作成【参考資料Ⅰ表1】
 - ・ 生徒の実現状況にあった簡素で効率的な評価規準の作成
- ③ 指導と評価の計画の作成
 - ・ 学習活動, 学習内容, 具体の評価規準, 評価の観点, 評価方法, 評価の場面を明確にした計画
 - ・ 単元構造図の作成【参考資料Ⅰ表2】

(2) 学習指導の工夫・改善

- ① 年間指導計画の検討・改善
 - ・ 系統性のある学習内容の実施

② 学習計画の作成

- ・ 学習のねらい, 本時の目標, 学習内容の明確化

③ 教材, 教具の作成

- ・ 各観点の自己評価シート作成
- ・ ワークシート, パワーポイントの作成

(3) 評価方法の工夫

① 評価規準簿【参考資料Ⅱ表3】

- ・ 指導と評価の計画と学びの姿を一体化した評価記入表

② 観点別評価記入シート【参考資料Ⅱ表4】

- ・ 評価を評点にする換算表

③ 技能の整理表

- ・ 各学年で習得する技能の明確化

④ 個人写真シート

- ・ 先入観のない, 確実に信頼性の高い評価

5. 研究の取組

(1) 1年目

- ① 研究対象単元の学習指導要領の内容の把握
- ② 年間指導計画の検討・見直しと学年間の系統化
- ③ 生徒の各教科・科目の目標と単元ごとの実現状況を把握して分析・考察の実施
- ④ 指導と評価の計画の作成
 - ・ 具体の評価規準を5項目で作成
 - ・ 学びの姿を5段階で作成
- ⑤ 評価規準・評価方法を検証し, 簡素で効率的なものに工夫・改善
- ⑥ 保健体育科教員相互の共通理解
- ⑦ 体育理論の学習活動の準備
- ⑧ 研究授業の実施

(2) 2年目

- ① 1年目の研究の成果を分析・考察して, 観点別評価規準と評価方法をさらに簡素で効率的に改善
- ② 具体の評価規準の検討・改善
- ③ 単元構造図の作成
- ④ 指導と評価の計画の改善
- ⑤ 学習計画を作成
- ⑥ 体育理論を座学で4時間の実施
- ⑦ 教材・教具の作成
 - ・ グリーンボール(少し柔らかい)やオレンジボール(柔らかい)を使用して, 恐怖心を少なくしての学習活動の実施
 - ・ 雨天時における体育館でのソフトボールの学習活動の実施
 - ・ 各観点の自己評価シートの作成
 - ・ 体育理論と保健のワークシートとパワーポイントでの学習活動の実施

- ⑧評価規準簿・観点別評価記入シートの作成
- ⑨技能の整理表の作成

(3) 3年目

- ①新学習指導要領に対応した指導と評価の計画、学びの姿、具体的評価規準の作成
- ②学習内容を明確にして、思考力や判断力を身に付ける学習活動や知識・技能を活用する学習活動の工夫
- ③保健体育科教員相互の共通理解をより一層深め、評価規準を適用する際のぶれをなくし、指導と評価の一体化に向けた学習指導の工夫と改善
- ④生徒の実現状況にあった簡素で効率的な具体的評価規準と学びの姿の分析・考察を行い、妥当性・信頼性のある評価方法の作成
- ⑤「関心・意欲・態度」「運動の技能」は観察で評価を行い、「思考・判断」「知識・理解」は学習ノートでの評価を実施
- ⑥具体的評価規準を5項目から2項目ないし4項目に精選
- ⑦学びの姿を3段階で実施【参考資料I表1】
 - ・C評価の生徒への手立てを作成
- ⑧体育理論を座学で6時間の実施
- ⑨個人写真シートの作成
- ⑩応急手当の学習活動において、練習用のダミーとAEDを使用しての実習の実施
- ⑪研究授業の実施

6. 研究のまとめ

(1) 研究の成果

①年間指導計画の見直し

「研究のねらい」にもあるように「生涯を通じて明るく豊かで、活力のある生活を営む資質や能力を育成すること」を実現するために、男女の違いをなくし、学年間において系統性のある学習内容の計画で行った。それによって、学習内容を復習的な内容・習得的な内容・活用的な内容と計画的に実施できるようになった。

②具体的評価規準の検討・改善

学習指導要領に定められた單元ごとの目標を確認した上で、本校の生徒の実態に応じた「おおむね満足」の状況である生徒の姿を目指して具体的評価規準を作成した。1年目と2年目は各観点の評価項目を5項目で行った。

しかし、評価に追われ学習内容や学習活動が充実しない状況が見られた。3年目には、評価項目を2項目から4項目に精選した。それによって、学習内容や評価規準が明確になった。

③学びの姿の検討・改善

1年目と2年目は、生徒の実態に応じた「学びの姿」を5段階で作成して行った。評価がそのまま評点に結びつけることを目的に5段階で行った。しかし、指導と評価を考えたときに、指導したことに対しての評価であることから、指導したことに対して「できているか」あるいは「できないでいるか」を重視して、3年目には3段階の「学びの姿」で評価

を行った。

ただし、A評価の中でさらに高まりのある姿をA○としてチェックすることにした。それによって、指導と評価の一体化が一層充実していった。また、C評価の生徒への手立てを作成した。

④指導と評価の計画の検討・改善

学習活動・学習のねらい・具体的評価規準・評価の観点・評価方法・評価の場面を明確にして計画を作成した。それによって、この時間に「何」を目的に「何」を教えるか、「どの場面」で「どのような方法」で評価するかが明確になった。生徒達が、ある程度の技能や知識が備わっていないと関心や意欲が高まらず、思考・判断においても知識がない中で思考させても深まりが見られない。また、判断する上で判断材料が少ないのではないかと考えられたので、単元の前半に運動の技能、体育理論と保健では、知識の習得を行い後半に思考・判断を指導評価する計画で取り組んだ。そして、単元構造図を作成して学習活動を行ったことで、ねらいから学習活動の計画そして評価と一連の流れが把握できたことで、ぶれがなくなり一層指導と評価の一体化が充実していった。

⑤思考力・判断力の育成を図る学習活動

この時間の学習内容や本時の目標を書いた学習計画を作成して、そのねらいを生徒に意識させて学習活動を行った。その結果、生徒はこの時間に「何」をして「目標が何」で「何を評価される」かが明確になり学習活動に対する意欲がさらに高まっていった。指導者もこの時間に「何」を教えるかが明確になったことで、充実した学習活動が行えるようになった。また、教材・教具の作成や各学年でどのような技能を身に付けるかを明確にした「技能の整理表」を使用して学習活動を行ったことで、生徒が積極的に取り組むようになり、技能の向上が実感できるようになった。指導者も指導する内容を明確にしたことで、学習内容・学習指導が充実していった。それによって、習得した知識を活用して思考力・判断力の育成を図ることを目的とした学習活動を実施できた。

(2) 今後の展望

評価において本来は、5段階が望ましいのでB評価を規準にA、A○とC、C△の評価の違いを文字（動詞）で表現して誰もがすぐに理解できる「学びの姿」を作成していきたい。

そして、誰もが共有できる妥当性・信頼性のある評価方法を作成して、さらに学習内容を明確にして生徒が理解しやすく楽しい学習活動を実施していくための工夫と改善を行っていく。その中でも、特に思考力・判断力を身に付ける学習活動や学習内容の作成と工夫を行っていきたいと考えている。また、本校の生徒の実現状況に応じた観点別評価の割合を今後検討していきたいと考えている。

(文責 : 保健体育科 山田 齊)

